

命の大切さ学習教室に参加して

渡邊佳子さん(朗子さんのお母さん)に宛てた手紙です。

平成8年8月27日、当時高校2年生の朗子さんは、同じく高校2年生の少年により殺害され、発覚を恐れた少年とその母親に御遺体を山中に遺棄される被害に遭われました。



わたなべさん、まずは私達にこのようなきちょうな場を下さってありがとうございます。話したりすることも大変で、できればしたくないことのはずなのに私達に細かく丁寧に教えてくれたおかげでわたなべさんの言葉一つ一つが、心に響きました。私はこの教室で加害者の人は法ではつを与えることができるけど、被害者や被害者の家族の心の傷は誰が直せるのかということも考えました。どうして加害者の方は命を大切にできなかったんだろうと思う反面、わたなべさんたち被害者の家族たちは一生消えない傷を抱えながら必死に周りの人に助けられ、助けながら前を向く様に人間の助け合う心や、強い心を感じることができました。今までの私はあまり死に現実味がなく、どこか他人事のようにでした。ですが、この会で命はいともたやすく壊され、当たり前の日常が一瞬で消える、恐ろしさを感じました。当たり前は何事もない日常が人々にとって世界からの最大の贈り物で、一番の幸せであることを感じながら、過ご

していきたいです。
学校名

瀧上市立天王南中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

伊藤 凜華 より

命の大切さ学習教室に参加して

渡邊佳子さん(朗子さんのお母さん)に宛てた手紙です。

平成8年8月27日、当時高校2年生の朗子さんは、同じく高校2年生の少年により殺害され、発覚を恐れた少年とその母親に御遺体を山中に遺棄される被害に遭われました。



実際に経験した体験を私たちが生徒にお話して下さりありがとうございました。とても辛く苦しい体験をして、それでも同じ体験をした方々に寄り添えることや、話をしてくれることをとてもありがたく思いました。大切に育ててきた娘を簡単にうばわれてしまう悔しさや悲しさ、私たちが知らない現場のリアルを知る事ができました。少年がした罪はなぜ成人の人がした罪より軽く扱われるのか、大切な娘の遺体をなぜ駐車場のブルーシートの上におかっていたのかなど、疑問がたくさんあり、とても悔しく悲しい気持ちになりました。加害者が少しの罰を受けただけで今は普通に生活していることにおどく腹が立ちました。被害者の方々に何の説明もなく、放置されていたことにもおどく悔しい気持ちになりました。渡邊さんが見せてくださった「WILL」の動画を見て、こんなに被害にあつた方々がいるのかと痛感し、今おきている事件も、他人事ではないなと考えました。いつ自分や友達、家族を失うか分からないので、日頃から感謝し、きちんと大切にしようと思えました。そして、自分の身を守ることもできるようになりたいと思いました。今回は本当にこのような体験をお話して下さりありがとうございました。

学校名

天王南中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

黒澤 希杏

より

命の大切さ学習教室に参加して

渡邊佳子さん(朗子さんのお母さん)に宛てた手紙です。

平成8年8月27日、当時高校2年生の朗子さんは、同じく高校2年生の少年により殺害され、発覚を恐れた少年とその母親に御遺体を山中に遺棄される被害に遭われました。



渡邊佳子さんの話を聞いて、とても大切な人が、急にいなくなるのは想像もできないくらい悲しくて苦しいものなんだということが分かりました。少年事件は成人犯罪と違うということも知りました。少年事件は加害者が守られ、被害者は無視されてしまうというものでした。これからは、被害者にもよりきょうてあげられ、る世の中にならしてほしいと思います。被害者の家族の方には、名よと傷つけられたり、間違った報道とされてもそれが事実と思われたり、好奇と偏見の目で見られたり、興味本意の質問をされるなど、とても悔しく、^非心しい思い、苦しい思いをされた人々だと思ひました。私は被害者の家族の人たちを偏見の目で見ないで、寄りきょうていけたらなと思ひます。この話を聞いて前よりも、もっと命の大切さについて知ることができたのでよか。たです。

学校名

澁上市立天王南中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

より

命の大切さ学習教室に参加して

渡邊佳子さん(朗子さんのお母さん)に宛てた手紙です。

平成8年8月27日、当時高校2年生の朗子さんは、同じく高校2年生の少年により殺害され、発覚を恐れた少年とその母親に御遺体を山中に遺棄される被害に遭われました。



私は今回の命の大切さ学習教室に参加して、感じたことや考えたことが沢山ありました。殺害した少年はどのような考えで、何を望んで実行したのか、もう少し、かり考えればたまたまその行爲の計画をやめることは出来たのか、たまたま、色々考えさせられました。一度失われた命はもう戻ってくることは無いのは当たり前ですが、私も同じ立場にたつたためそれを願うことしかできていると思いました。殺害した少年は今では普通の日常に戻ることかできていると考えるだけで悔しい気持ちでいっぱいになりました。「加害者は団結し、被害者は崩壊する」まさにその通りだと思いました。27年経った頃、やっと周りの人に事件のことをお話できるよになつたのはとてもすばらしい事だと思いました。ここまできたのは周りの人の支えがなければならなかったと思うので自分もこれから家族や友人を大切にしようと思いました。今回の件に関わらず、少くとも殺害した少年と同じように考えをもっている人もゼロではないと思ったので、何かあったら早めに相談するようになろうと思いました。命をうばわれてしまった人のかまご自分の命を大切に、一瞬一秒を大切にこれから生きていこうと思いました。

学校名

瀧上市立天王南中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

川辺 桃子

より

命の大切さ学習教室に参加して

渡邊佳子さん(朗子さんのお母さん)に宛てた手紙です。

平成8年8月27日、当時高校2年生の朗子さんは、同じく高校2年生の少年により殺害され、発覚を恐れた少年とその母親に御遺体を山中に遺棄される被害に遭われました。



講話を聞き、渡邊さんやその家族の方々の27年間の苦しみ、辛さ、朗子さんと思う強い気持ちを感じるこぼれごきまじい。27年という長い時間を、色めせるこのは、事件当時の想いととも生きてくるのは、非常に大変なことだったのだらうと分かりました。私達らの毎日には考えられないことです。加害者である少年の気持ちも理解しなくてはいいものですが、社会の、被害者に向けて視線の冷たさも、ひどいものだったと知り、悲しくなりました。他人事ごととらえるのではなく、被害者の心に寄りそい、一緒にいること、もう一度と起ささばいいためにはどうすればいいのかを考えていくべきだと思いました。

このような事件も、多くの人を悲しませ、社会を悪い方向へと運ぶ、戦争のようは、とりかえしのつかないものだと知り、後世の人たちに伝えるべきことなのだと分かりました。私も小学生でも、このような活動やニュースに関心を持ち、過ごしていると思います。

学校名

瀧上市立天竺南中学校

氏名 ※氏名を出さない方は記入しないでください。

より